

国内シェア No.1!! 「安心」と「信頼」のミュートックの高積紙揃機シリーズ!!
 全ての機種が『IGAS2022 (11/24 ~ 11/28)』で見えて触ってご体感できます!!

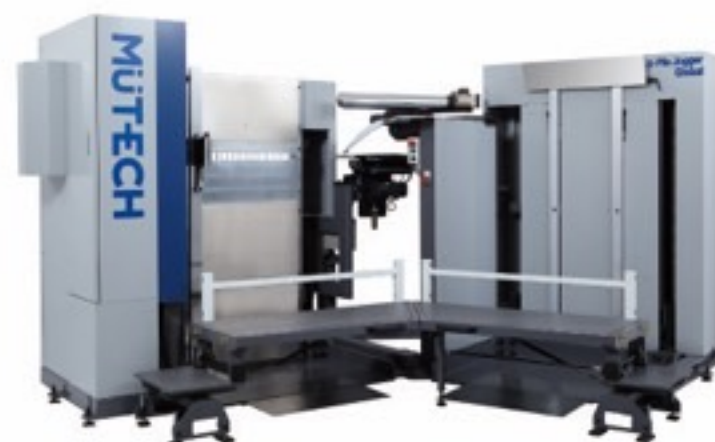
全ての性能を備えた高積紙揃機の最高峰

μ-Pile Jogger



コストパフォーマンスを重視した高積紙揃機

μ-Pile Jogger Global



多品種小ロットに対応した高積紙揃機

μ-Pile Jogger mini



クリアファイルに特化した高積紙揃機

μ-Pile Jogger Compact



≫≫ 信頼のブランド・ミューパーイルジョガーシリーズで初搭載!!

≫≫ 紙面管理装置を搭載!!

印刷では避けて通れない温度、湿度、そして静電気。
 ミュートックの高積紙揃機は静電気除去だけでなく、
 印刷紙面の温度を上昇させることが可能。印刷用紙の状態を
 リアルタイムで測定し最適な状態にセッティングできます。



≫≫ 紙積み機の稼働状態をモニターで確認可能。生産管理に貢献します!!



その他、現場の方に経営者の方に、優しい機能が盛り沢山投入されております。ぜひ会場でご覧ください!!

MUTECH
 SINCE 1916

株式会社 ミュートック

175-0081 東京都板橋区新河岸 2-19-3 Tel) 03 3977 1717 Fax) 03 3977 1712
 info@mutech1916.com www.mutech1916.com

2022.11

信頼のブランド 新発売! ミューパーイルジョガーの 2023モデル新登場!

7つの機能で印刷用紙を最適化!

働く人の労働負担を最小限にとどめた、人に優しい基本設計。
 印刷用紙を最適な状態に積み上げる新たな7つの機能を備えたミューパーイルジョガー・シリーズ。
 その全てが、頼れるブランドの高積紙揃機です。



MUTECH
 SINCE 1916

考える、気づく、動きだす。ミューテックは印刷業の原点を応援します。

わたくしどもミューテックは、
印刷会社の現状を踏まえ、さらにその先を考え、
印刷の出発点である『紙』を中心に思考し、
これからの印刷現場に必要なポイントを整理しました。

印刷現場 meets ミューパイルジョガー、の証言。

Q. 印刷品質を追求していけばいくほど、紙の状態っていうのが気になってくると言われます。御社では高品質を維持するため、紙に関してどのようにされていますか？

A. コートと上質ではやっぱりインキののりが違う。同じコートでも冷え切った状態とある程度温まった紙では、差は出てくる。特に冬場一番冷え切った紙は冷蔵庫クラス。紙を印刷室に入れた場合、イオンで静電気除去し、温風で紙面を温めれば、インキののりもよくなってる。そういう部分で差は実感しています。

Q. 紙は印刷する前に工場内で慣らされますか？

A. なるべく早めに印刷現場に入れるが紙の中の方まで温度が変わるには結構時間がかかる。その対策として紙を積み時に1枚1枚の間にミューパイルジョガーの温風で温めれば、時短という点でも効率よく進めることができます。



Q. ミューパイルジョガーで温風を入れるっていうのはやはり合理的なんですか？

A. 合理的で、かつ画期的です。ものによっては紙を積んでから結構時間が経って印刷機に通すので、多少温度は変わるかもしれませんが、一旦温めると室温より下がることはありません。

Q. インキの硬さと温度の相関関係を教えてください。

A. 特にUVだと温度によってかなり硬さの変化が激しくなります。月曜日の朝だけが極端に硬いとか。

Q. 紙のターゲット温度は何度ぐらいなのでしょう？

A. 紙の方も室温ぐらいがいいのかなと考えています。20度ちょっとくらいあればいいのかなと。ミューパイルジョガーであれば250枚の束に、イオン効果で静電気除去された温かい風と、針とクワエの振動により、一時的に温度を上げるには合理的な方法です。



Q. 手積みされていた時はどういう現象が起こってましたか？

A. 一番多いのは紙むけとエッジピックです。

Q. 紙むけやエッジピックで刷り直すことはありましたか？

A. 刷り直さないまでも、機械止めてプランを拭いたり。プラン洗浄の回数も多くなります。

Q. 手積みをされてた頃、紙が冷えた状態の時は何か特別にやることはありましたか？

A. UVインキでの印刷は空通ししてました。UVランプの熱で多少は熱が加わるので。あまりひどい時はもう一回空通しします。でも時間が無い時は、これはやっぱり無駄な作業ですね。

Vol 1 (9月号) : 変革の時代だからこそ成長と発展を続けられる会社の体質とは？

Vol 2 (10月号) : 企業は人なりを基盤とし人材を積極的に登用・活用するは？

Vol 3 (11月号) : 印刷現場をより快適、より快調にするためには？

今回はこの3つの視点からより良い印刷物を製造する課題解決のため、エイト印刷株式会社様に新発売の紙面管理システム搭載高積紙揃機『ミューパイルジョガー』を導入していただきました。静電気除去、紙の温度、紙の揃えをコントロールすることで、何がわりどんなメリットをもたらしたのか。福田光緒工場長様と館利典副工場長様に貴重な体験を語っていただきました。

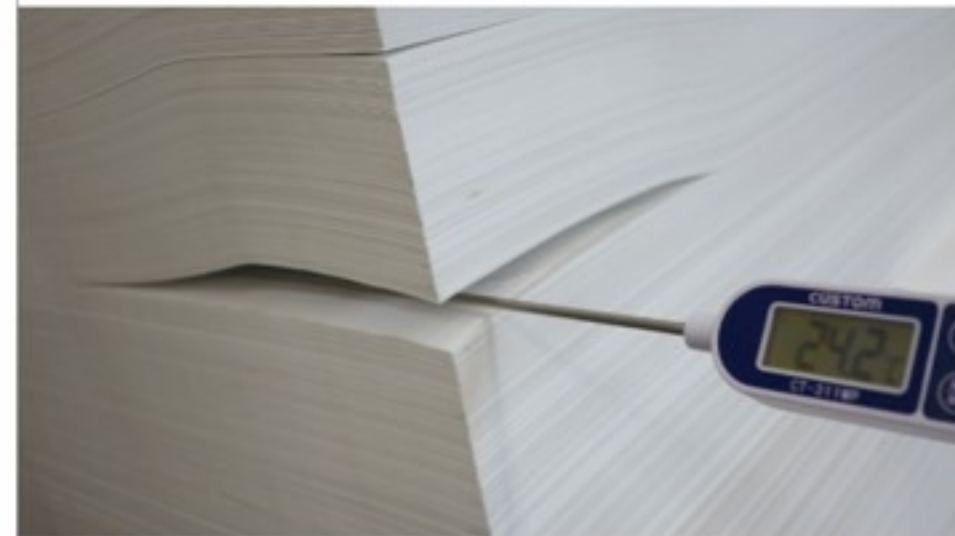
Q. 紙の湿度の話が出ましたが。

A. 紙の湿度も50~60%が適正な湿度だと思います。エイト印刷では加湿器により常に60%に保たれいい室内環境を維持しています。

Q. ほかに紙で気をつけてることはありますか？

A. (工場長) 手積みだと扱いによってはヘコみたいなのがしやすい。ミューパイルジョガーだと確かに付きづらいで助かってます。

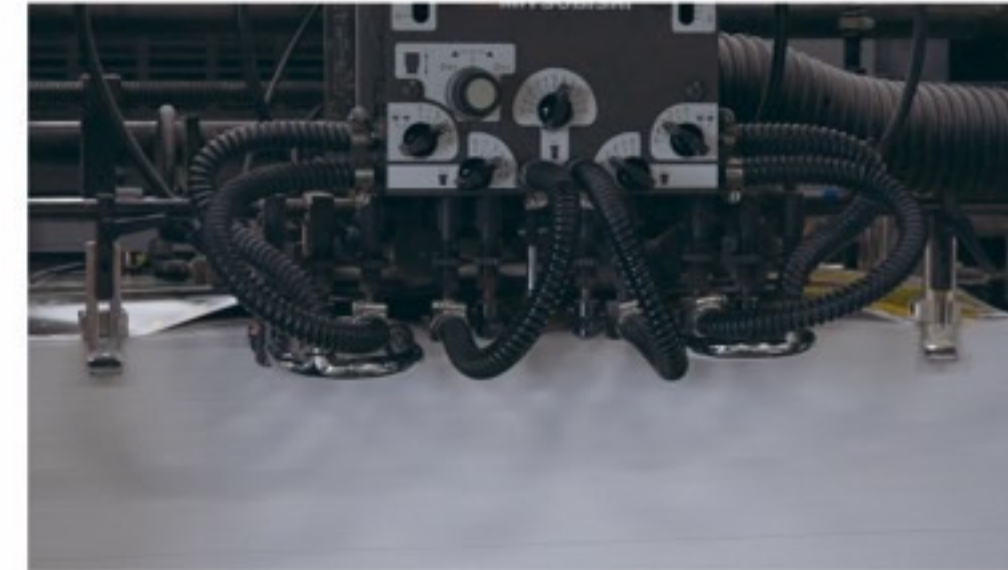
A. (副工場長) 手積みでも風入れするんですけど、紙同士がくっついていたりしています。ミューパイルジョガーだと機械がイオン効果で静電気除去されたエアーを入れてくれるので、そういうのも最近はない。フィーダーストップが多くて紙を積み直すことも最近はないですね。



Q. 印刷機も変わってないし、紙も変わってくるわけでもないけれども、やはりそういう効果があったということですね。

A. (工場長) そうですね。それと一番はやっぱり体の負担が少ないことですね。紙積み時間に関してベテランと新人の差が少なくなりました。ベテランの人は非常に早く積めるのですが身体に対する負担が大きい。やっぱりミューパイルジョガーがあった方が断然楽だと思います。なので遅番過ぎても大丈夫かなと。ローラー洗浄と紙積みは若い子もやりたがらないし、なかなか人も来ないですし。

A. (副工場長) 本当に印刷機を温めていつも使っている状態になるように月曜日は特にやっていました。朝早く来て準備するんですけど、長い時は30分ぐらい回していました。それこそローラーが冷えているので。あまり変え過ぎてしまうと、今度機械が回り始めた時はまた温まってくるので、あまりいじれません。



Q. 紙面の静電気や温度を標準化できるようになって、どのぐらいスムーズになったのでしょうか？

A. (工場長) 静電気とか温度とかにまつわるところで言えば90%以上は来てる。

A. (副工場長) 紙のベコがなくなったら事故で刷り直すこともない。それに紙を積み直すっていう時間もなくなっているの、その辺のかかる時間の短縮ができ、すぐに次の仕事にかかれます。あと、難しかった仕事の後戻りしないスムーズな工程になった、停滞しないような感じ。ロスが多いとオペレーターをやってて凄ストレスになりますから。



エイト印刷株式会社様の印刷現場によって、
静電気除去、紙の温度、紙の揃えの重要性が再認識できました。
貴重な生のお声を、ありがとうございました。

※文中の写真は、エイト印刷株式会社様とは関係ありません。